

『宇治拾遺物語』の 説話を読み解く

講師：田中 宗博 大阪府立大学 名誉教授



画像：「慕帰絵詞」（模本）東京国立博物館「研究情報アーカイブス」<https://webarchives.tnm.jp/> より

* 午前の部または午後の部のいずれかを選んでお申し込みください。 詳細は裏面をご覧ください ▶▶

2024年 **4/16**[火]~**6/18**[火] 午前の部：11:00~12:30
午後の部：14:30~16:00 毎週火曜日・全10回

- 会場：大阪公立大学 I-site なんば 2階（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル）
- 定員：各60名（申込者多数の場合は抽選） ■ 対象者：どなたでも ■ 受講料：7,000円（全10回分）
- 申込方法：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。

- (1) 申込フォーム：本学Webサイトまたは右記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。
- (2) 往復はがき：往信用はがきに ①ご希望の時間帯、②氏名（フリガナ）、③年齢、④郵便番号・住所、⑤電話番号、⑥このチラシの入手先をご記入の上、下記宛先へお送りください。

※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。

（宛先）〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル
大阪公立大学 社会連携課「宇治拾遺物語」係

※受講の可否は 4/3(水)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

- 問合せ先：大阪公立大学 社会連携課 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203



申込フォーム

【注意】お申し込みの際にはご希望の時間帯
「午前の部」、「午後の部」、「どちらでもよい」
のいずれかを必ずご記入ください。

講義概要

鎌倉時代13世紀前半に成立したという『宇治拾遺物語』は、全部で197話からなる説話集です。散佚『宇治大納言物語』の流れを汲み、『今昔物語集』や『古本説話集』とも話を共有しますが、独自説話の中にも興趣の尽きない話が散見されます。全篇の構成を厳格に考える『今昔物語集』とは違って、雑纂説話集と呼ばれることもあります。説話間には微妙な連想関係の糸が指摘されることも多くあります。話の内容は序文に言うように、天竺・大唐・日本に及び、さらに「貴き事」「をかしき事」「恐ろしき事」「哀れなる事」「きたなき事」もあって、さらには「少々は空物語」まであるといわれます。個々の説話に、殊更な教訓性や説示性を付与することは少なく、説話そのものに語らせようとする姿勢も顕著で、読者は自らの関心や知識に応じて如何ようにでも話を読み込み、楽しむことの出来る説話集だとも言えます。

この講座では、そんな極めつきに面白い説話集から、毎回ひとつないしは複数の説話を取り上げ、楽しく読み解きながら、背後にある当代の思想・信仰・世界観についても知見を深めることをめざします。



講師：田中 宗博
大阪府立大学名誉教授

講義スケジュール

第1回 4月16日(火)	稚児説話 2 題 — 狸寝入りする稚児と落花を泣く稚児 — 比叡山で暮らす稚児について語る 2 説話 (第12・13話) を取り上げて、女人禁制の寺院内に暮らすお稚児さんと、僧侶との関係性の機微について考えます。
第2回 4月23日(火)	哄笑の説話 — 「狂惑の法師」とその仲間たち — 貴顕の宅を訪問し言葉巧みに金品を詐取せんとする法師をめぐる 2 説話 (第5・6話) を読解し、笑話としての性格や背後の寛容な人間理解について考えます。
第3回 4月30日(火)	怪異説話 3 題 — 「空物語」とは何か — 158~160話に配される化け物語を取り上げ、怪異説話としての読解を深めると共に、意識的に嘘であることを暗示する説話の語り (空物語?) についても考えます。
第4回 5月7日(火)	序文の示すもの — 散佚『宇治大納言物語』と仮構された説話聴取の〈場〉 — 『宇治拾遺』序は後補の可能性も疑われますが、先行『宇治大納言物語』の成立過程を伝える説話と読むことも可能です。『今昔物語集』を含む、説話伝承関係についても講じます。
第5回 5月14日(火)	絵仏師良秀の話 — 芥川龍之介「地獄変」との関係において — 芥川「地獄変」(大正7)は『宇治拾遺』第38話を構想の原拠とします。世俗を超越する異能を自負する良秀の、画業にかけた執念に芥川は何を見ようとしたかを考えます。
第6回 5月21日(火)	地蔵と邂逅した尼の話 — 地方一庶民の信仰と救済 — 名も無き田舎の庶民である老尼が、欺されることも厭わない至純の信心によって、生身の地蔵に値遇した話 (第16話) を読み、『宇治拾遺』の語りの方を考えます。
第7回 5月28日(火)	石橋の下の蛇の話 — 平安京に生きる女性達の世界 — 第57話は、蛇の復讐・女性への侵犯を匂わせて展開しますが、末尾は良縁・致富の大団円に至ります。巧みに情報を制御し、読者の関心を領導する語り口について考えます。
第8回 6月4日(火)	成らぬ柿の木に現じた偽仏 — 『今昔物語集』所載話との比較対照 — 第32話は、『今昔物語集』20-3と同話関係にあります。情報の繁簡の差が著しくあります。『今昔』とは異なる、雑纂的な『宇治拾遺』ならではの説話含意について考えます。
第9回 6月11日(火)	腰折れ雀の話 — 昔話と説話集の関係について — 『宇治拾遺』には瘤取り・藁しべ長者の如き、昔話と関わる説話が散見しますが、第48話は舌切り雀とも関わる一話です。口頭の昔話伝承との差異について考えます。
第10回 6月18日(火)	虎と鱶の死闘を見る話 — 動物葛藤説話と異国認識について — 日本に棲息しない異国の猛獣＝虎は、どのように認識され表徴されたのでしょうか。サメとの対決を語る第39話を、第155・156話もあわせて、動物説話の中で位置付け考えます。

*感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容等が変更となる場合があります。